CONTENTS

おきぎん調査月報

2019 8 No.539

ご覧になれます。

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.185
チャレンジする事を恐れない
株式会社 前田産業（前田産業ホテルズ） 代表取締役社長 前田 裕子

5 地域リレーションシップ情報 179
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
「消費者行政の取組について」

8 けいざい風水

10 県内景況・確報
2019年５月の県内景況

18 国内景気動向

20 沖縄マーケティング情報
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄（年次）
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向（月次）

42 経済社会のできごと（沖縄、国内・海外）
2019年６月

表紙写真/琉球ガラスの風鈴

チャレンジする事を恐れない

“ちむぐくる”でおもてなし
前田産業ホテルズ
MAEDASANGYO HOTELS

株式会社　前田産業（前田産業ホテルズ）
代表取締役社長　**前田　裕子**

今回は、昭和61年に設立以来、「第二の我が家として選ばれるNo.1ホテルになる」を目指して沖縄の北部（やんばる）で個性と特色の違う複数のホテルや施設を展開している、株式会社　前田産業（前田産業ホテルズ）の前田　裕子代表取締役社長に、4月にグランドオープンした分譲型ホテルの仕様やコンセプト、また、ヤンバル観光への今後の期待等についてお話を伺って参りました。

個性と特色の違う複数の施設を運営し、幅広いニーズに応える

当社は昭和61年に設立以来、沖縄の北部（やんばる）でホテル業を営んでおり、個性と特色の違う複数の施設を運営し、幅広いニーズにお応えしています。

平成元年に「ホテルゆがふいんおきなわ」を、平成５年に「ホテルゆがふいんBISE」を、平成12年に「ホテルマハイナウェルネスリゾートオキナワ」を、そして、平成31年に「オキナワハナサキマルシェ」と「アラマハイナコンドホテル」を開業しました。

名護市に1つのホテル、本部町に3つのホテルと1つの付帯施設（テナント施設）の合計5店舗を有し、レジャーや観光はもちろんのこと、ウェディングやご宴会、企業様の会議研修、インセンティブツアーなど、様々なシーン・ご要望にお応えするサービスを提供させていただいています。

ホテルゆがふいんおきなわ
人の喜びを創りたい
沖縄本島北部の中心地・名護は観光にもビジネスにも抜群のアクセス拠点。
美ら海水族館まで車で25分、国際会議の会場として有名な万国津梁館まで車で15分。
宿泊の客室はもちろんのこと、会議室、大宴会場、チャペルも充実。様々なシーンにご利用ください。

ホテルゆがふいんBISE
潮風が運ぶ南の島のWelcome home
BISEから眺める夕日の素晴らしさは言葉では表現できません。
広々とした和洋室から、伊江島や瀬底島、水納島の風景をお楽しみください。
美ら海水族館が目の前という好立地。
備瀬のフクギ並木まで徒歩5分、今帰仁城跡までは車で10分。
沖縄の原風景と歴史をお楽しみください。

ホテルマハイナウェルネスリゾートオキナワ
暮らすようにリゾートを楽しむ
美ら海水族館を有する国営海洋博公園が真向かいという好立地の大型リゾートホテル。
全室オーシャンビューで40平米以上の客室は長期滞在にも大人気。
ミネラルたっぷりの大浴場、屋内外プール、エステで癒しのひと時を

分譲型ホテル「アラマハイナコンドホテル」、３カ月間で100室完売

平成31年４月に開業した「アラマハイナコンドホテル」は、分譲型ホテルです。同敷地内の旧テナント施設「やんばる海の駅」の改装を契機に、当初は１階を店舗、２階に客室程度を構想していましたが、東急リゾート様との出会い

もあり、建物11階建て100室のコンドミニアムホテルを４月13日にグランドオープンしました。

平成29年８月から分譲販売を開始しましたが、３カ月間で全室完売しました。分譲価格は部屋のタイプ、階によっても違いますが平均して4,000万円台で、最上階のスイートルームは8,000万円で販売しました。

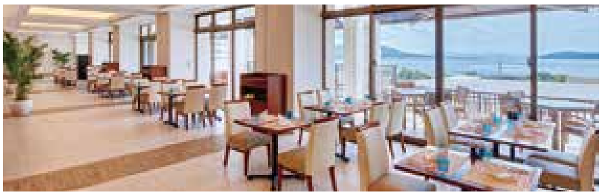
オーナーは全て日本人で、本土のお医者様、弁護士、経営者の方々が９割、１割が県内地元です。本土のオーナーは投資目的、地元のオーナーは保養や福利厚生目的が多くを占めます。

暮らすようにリゾートを楽しむ

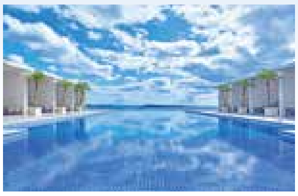
アラマハイナコンドホテルの客室は、全室オーシャンビューの開放感を引き立てる、６m以上のワイドスパンの広々した空間となっており、全部屋タイプが寝室とリビングを分けたスイートタイプとなっています。平均面積は約59㎡で、最上階には95㎡超のラグジュアリースイートをご用意しました。

▲ロングステイ仕様の客室

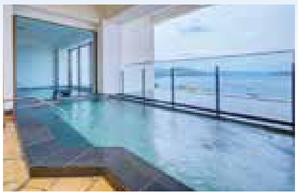
２階には雄大な海を一望しながら地元の食材に舌鼓を打てるレストラン、インフィニティプール、フィットネスジム、最上階には広々とした展望大浴場をご用意しました。



▲レストラン



▲インフィニティプール



▲展望大浴場

ホテルのコンセプトは、「暮らすようにリゾートを楽しむ」です。まるで我が家に帰るように、何度も訪れたくなるリゾートをつくりたいという想いがあります。

その想いの基本にあるのは、「ちむぐくる（真心）」です。心を込めたおもてなしから、心を動かすリゾートが生まれ、沖縄ならではのホスピタリティのさらなる高みを目指すことができると考えています。

「ちむぐくるでおもてなし」は、わが社の経営理念でもあり、そこだけは、当社のホテルの顔が各々違っても、筋が一本通っているところです。

▲全職員に配付している「ちむぐくれど」カード

ホテル宿泊以外の地元の方々にも楽しんでいただきたい

アラマハイナコンドホテル前方に、併設複合商業施設「オキナワ　ハナサキマルシェ」をホテルのグランドオープンに先立って３月22日に開業しました。レストラン、カフェ、フードコートなど、沖縄の魅力を集約したグルメエリアをはじめ、名産品を集めたショップからイベントスペースまで、多彩な魅力ある店舗が咲き誇っています。老朽化した旧「やんばる海の駅」を造り変えたもので、既存の３店舗の他に新たに11店舗がマルシェを展開しています。

今回、世界大手チェーンのカフェも敷地内にオープンし、地元でも大きなアイキャッチングになっていますが、是非、ホテル宿泊以外の地元の方々にもヤンバルへのドライブの際には、ハナサキマルシェでグルメとショッピングを楽しんでいただきたいと思います。

▲オキナワ ハナサキマルシェ

ワーク・ライフ・バランスに力を入れる

私たちは、働く従業員ひとりひとりが幸せでなければ、お客様にご満足いただく良いサービスをご提供することが難しいと考えます。互いの人間性と個性を尊重し、各々が持つ才能（長所）を伸ばすステージを与え、活き活きと働くことのできる企業風土を心がけております。

当社は平成27年に沖縄県からワーク・ライフ・バランス企業として認証されました。具体的には、年次有給休暇の時間単位での取得、配偶者出産時補助休暇（有休）などの制度づくりや定期的な従業員満足度調査の実施が評価されたものです。認証後も、積立有給休暇制度や自己啓発支援制度、在宅勤務制度の制定及び誕生日ランチ会の実施など、社員が仕事と生活のバランスがとれるようなサポートを続けています。

また、社員研修にも力を入れており、最近、嬉しかったのは、バーラウンジで働く若い女子職員が自発的に社外研修を希望して、東京の大手ホテルに２週間、研修派遣ができたことです。今後は社員が希望すれば、ラーニング留学等も休職扱いで派遣させたいと考えています。

北部に空の玄関口

これからの沖縄観光の未来を考えると、私は北部に空の玄関口が出来る事を切に願っています。純粋に経済の発展、南北格差をなくすという意味と、渋滞や排ガスの解消・低減、また、お客様の利便性、要は、のんびりとヤンバルに滞在したいという人が増えている中、往復の４時間は滞在中にもったいないと思うからです。

北部にLCC専用空港ができれば、国際直行便や格安国内便の拡充が可能となり、旅客輸送能力が拡大し、北部での滞在時間や観光消費額の増加が期待できます。

ヤンバル北部の世界自然遺産としてのブランド化など、新たな観光ステージを見据え、官民挙げて議論が進むことを期待したいと思います。

その時代の変化に合わせて変わる事 、柔軟にしなやかにチャレンジする事を恐れない

観光産業を取り巻く環境は、景気の回復やアジアを中心とする外国人観光客の増加により好調と言えます。今後は、より多様なお客様への受入体制を整備していくことが求められています。近い将来、沖縄が魅力溢れる国際的リゾート地となるよう、また沖縄ブランドを確固たる質の高いものへと発展させるよう志を高く持ち、微力ながら一歩ずつ前進していきたいと思います。

「最も強いものや賢いものが生き残るのではない。最も変化に敏感なものが生き残るのだ。」と言われるように、私達はその時代の変化に合わせて変わる事 （FITする）、柔軟にしなやかにチャレンジする事を恐れないで成長していくことを信条に精進してまいります。

株式会社前田産業（前田産業ホテルズ）沿革

昭和61年３月	名護市字宮里453番地の６に（有）前田産業設立
平成元年９月	ホテルゆがふいんおきなわ開業
平成５年４月	ホテルゆがふいんBISE開業
平成12年３月	資本金￥115,000,000－ へ増資
平成12年８月	ホテルマハイナウェルネスリゾートオキナワ開業
平成15年４月	やんばる海の駅開業
平成16年３月	株式会社へ組織変更
平成21年３月	ホテルゆがふいんおきなわに新館「あがり（東）館」オープン
平成23年９月	ホテルゆがふいんおきなわの宴会場を大幅リニューアル（２階・８階）
平成25年７月	ホテルマハイナウェルネスリゾートオキナワの第一期リニューアル完了
平成26年７月	ホテルマハイナウェルネスリゾートオキナワの第二期リニューアル完了 オーシャンフロアオープン
平成31年３月	オキナワ ハナサキマルシェ開業
平成31年４月	アラマハイナコンドホテル開業

沖縄美ら海水族館まで車で5分
本当の沖縄を、かなえよう。
THE TRUE RESORT
誕生。アラマハイナ コンドホテル
オキナワ ハナサキマルシェ
飲食店・カフェ・雑貨・手作り体験
「やんばる」でしか出会えない、沖縄の歓びを。
アラマハイナ コンドホテル グランドオープン
Ala MAHAINA
CONDO HOTEL
www.ala-mahaina.com
OKINAWA
HANASAKI MARCHE
www.hanasaki-marche.com
ゆがふいん BISE
HOTEL YUGAF INN BISE
www.bise.jp
美ら海水族館・エメラルドビーチに歩いて行ける！ 広～い客室と絶景が評判のコンパクトリゾート。
MAHAINA
WELLNESS RESORT OKINAWA
www.mahaina.co.jp
大型ガーデンプールや大浴場など、充実した設備と広い客室を備え、ゆったりと過ごせるた大型リゾート。
ゆがふいん おきなわ
HOTEL YUGAF INN OKINAWA
www.yugaf.com
穏やかな名護湾を望む抜群のロケーションと美味しいお食事が自慢のシティリゾート。
ホテルゆがふいん BISE
ホテルマハイナ ウェルネスリゾートオキナワ
アラマハイナ コンドホテル
オキナワ ハナサキマルシェ
備瀬のフクギ並木
沖縄美ら海水族館
海洋博公園
MOTOBU
今帰仁城跡
NAKIJIN
NAGO
名護球場
ホテルゆがふいんおきなわ
“ちむぐくる”でおもてなし
前田産業ホテルズ
MAEDASANGYO HOTELS

けいざい風水

民泊事業

新たな魅力拠点の可能性

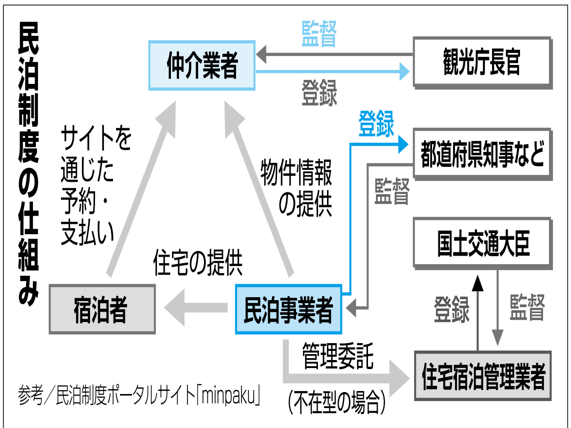
2018年６月に住宅宿泊事業法（以下、民泊新法）が施行され、いわゆる「民泊」事業について一定のルールが定められました。これまで「民泊」を営むには旅館業法等の許可が必要とされていましたが、民泊新法の施行に伴い、必要要件を整備の上、所管省庁への届出により事業参入が可能となりました。民泊新法では「住宅宿泊事業者（事業者或いは家主）」「住宅宿泊管理業者（委託管理）」「住宅宿泊仲介業者（仲介あっせん）」の三つのプレイヤーが位置付けられており、それぞれの役割や義務が定められています。

特に「住宅宿泊事業者」「住宅宿泊管理業者」には、これまでの課題であった宿泊者による騒音やごみ出しによる近隣トラブルに対応するよう、「近隣住民とのトラブル防止措置（宿泊者への説明義務や苦情対応の義務）」が義務付けられ、安全面・衛生面の管理も含めて事業を営む上での配慮も必須要件となります。

民泊新法に基づく沖縄県全体（那覇市含む）の住宅宿泊事業の届出提出件数は、772件となっており、そのうち受理済件数は689件に上っています（18年12月14日時点：民泊制度ポータルサイト「minpaku」より）。比較的安価に利用できる「民泊」は、多様化する観光客の宿泊ニーズへの対応と併せて今後も増加するものと見込まれます。

地域によっては空き店舗などの利活用による活性化が期待できることから、主要観光地以外における新たな魅力創造拠点としての可能性が期待されます。

（沖縄銀行　北中城支店長　眞喜志　大輔）



（2019年１月13日掲載）

中城村の人口増加

村営バス充実が一因

中城村の人口は、2013年度から17年度の間で1,791人増加の２万277人となっており、世帯数については1,109世帯増加の8,367世帯、小中学生の生徒数も201人増加の1,702人となっています。人口増加の要因としては、南上原地区の区画整理（居住地の確保）と、村内交通機関を充実させている点が大きいと言えます。

15年８月までの公共交通機関としては、国道329号線を通るバス１本でしたが、15年７～８月の実証運行を経て、９月より本格的に中城村運営の「護佐丸バス」がスタートしました。

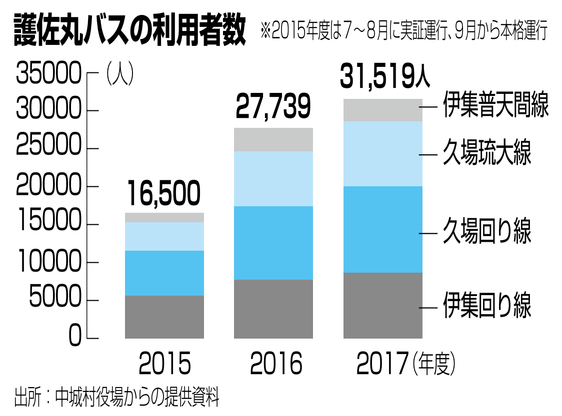
「護佐丸バス」は村内の各自治会集落内を通ることで村内を網羅し、村外への交通機関に繋ぐ役目も担っています。

路線は「伊集回り線」「久場回り線」「久場琉大線」「伊集普天間線」の四つがあり、利用者数も17年度は３万1,519人（前年度比3,780人増）に上るなど、増加傾向にあります。

乗車１回当たりの運賃は、小学生50円、中学生100円と低価格で、一般利用者でも200円の料金設定となっています。低価格の背景には、中城村による「通学問題の解消」「福祉の増進」など、村民の生活環境の改善を意識した活動があります。

「護佐丸バス」を運営することで村負担は大きいものの、村民の生活環境は改善していることから、人口増加にも貢献していると思われます。今後も、さらなる生活環境の改善等により、人口が増加し中城村がますます活性化していくことを期待します。

（沖縄銀行　なかぐすく支店長　山城　敏）



（2019年１月20日掲載）

※琉球新報に掲載

貯蓄の目的と方法

将来に備えた選択を

「貯蓄」は、何のために？どのような方法で？と思われたことはありませんか。

貯蓄の目的は、年齢層や世帯に応じてさまざまですが、金融広報中央委員会の調査によると、全年代においては「老後の生活資金」が最も多く（65.6％）、次いで「病気や不時の災害への備え」（61.1％）、「子育て（教育）資金」（30.1％）の順となっています。

一方で「目的は無いが金融資産を保有していれば安心」が20.7％と４位にあります。

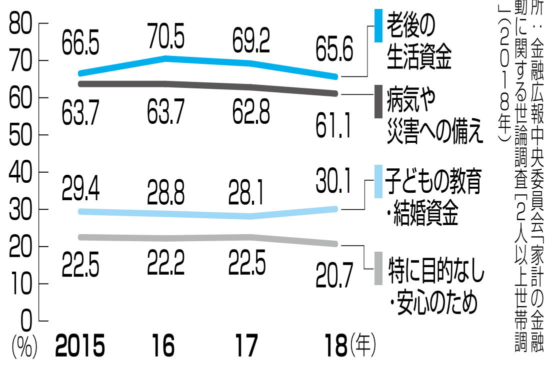
「貯蓄」の目的は、比較的近い将来から十数年先の将来に対する備えまでさまざまですが、目的を決めずに安心感を得るため、つまり備えることを目的とする方も多いといえます。

年代や家族構成によって将来の目的は異なります。目的によって目標金額や貯蓄期間も異なり、積み立てに充てる金額もそれぞれの世帯や収入状況で異なりますので世帯や収入状況にあった貯蓄方法の選択も必要です。貯蓄の方法として、積み立てを利用する方法が一般的ですが、それ以外にも個人年金保険、積み立て式の投資信託などさまざまな金融商品があります。月々の預け入れ（投資）金額や解約時期、リスクなどそれぞれに特長があり、ご自身のライフプランにあった方法を選ぶことが重要といえます。

貯蓄といっても、目的に応じてさまざまな商品があります。「将来」のため、「資産形成」のためにぜひ、金融機関などで相談していただきたいと思います。備えあれば憂いなし。将来に備えて「貯蓄」を始めてみませんか。

（沖縄銀行　ローンFPステーション南風原店店長
伊敷　正和）

金融資産の保有目的（金融資産保有世帯）※複数回答



（2019年１月27日掲載）

ふるさと納税クラウドファンディング

地域活性化を応援

ふるさと納税制度は、節税効果に加え魅力的な地域特産品などの返礼品で人気となっていますが、近年、ふるさと納税とクラウドファンディングを組み合わせた「クラウドファンディング型のふるさと納税」が地域活性化の一助につながるものとして注目を集めています。

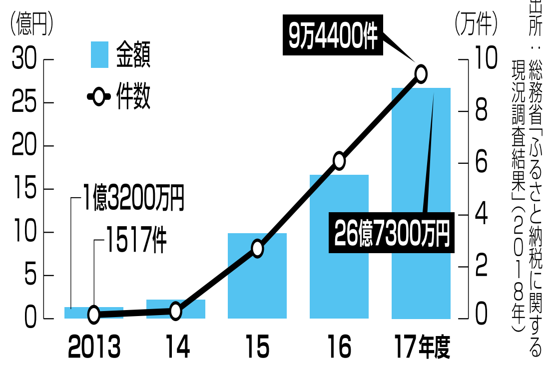
クラウドファンディング型のふるさと納税は、地域活性化など支援したい事業に寄付というかたちで投資することで、寄付を受けた自治体から特産品などをお礼の品として受け取ることができ、さらに投資した資金はふるさと納税と同様に寄付した金額から２千円を引いた金額が住民税や所得税から控除されることから、地域活性化事業等に直接投資をしながら節税効果が得られます。住宅ローン控除対象者もふるさと納税を利用することはできますが、住宅控除額が高い場合、ふるさと納税による節税を得られないケースがありますので注意が必要です。

総務省による「ふるさと納税に関する現況調査」によると沖縄県の2017年度の受け入れ額は約26億7,300万円、受け入れ件数約９万4,400件となっています。また、前年度比は受け入れ額で約1.6倍、件数で約1.55倍と、全国を上回る伸び率となっており、今後もさらに拡大するものと見込まれます。

各地域においては実施したいと思っていても資金がなくて実施できない事業や、昔行われていたイベントを復活させるなど、多くの事業が提案されています。地域活性化に向けた事業を応援するために、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用してみてはいかがでしょうか。

（沖縄銀行　ローンFPステーションやんばる店長
長嶺　憲作）

沖縄県のふるさと納税受け入れ額と件数



（2019年２月３日掲載）

目次へ